

花一筋 元氣も咲かす

黄綬

フラワー装飾1級技能士
原 万里子さん

「大好きな花の道を一筋 花卉園芸の生産者を指導する仕事をしていたため、子どもたちから花に囲まれ、華を与えていきたい」。華を育った。

結婚して宝塚市へ。2人の子育てが一段落したころ、神戸で教室を開いた第一人者、多木金策さんの門をたたいた。16年間学び、花それぞれの魅力を引き出す術を身につけた。

やかな笑みがこぼれた。

ヨーロッパ各国のフラワーデザインを学んだ経験を生かし、40年以上活躍。ホテルやテレビ番組のディスプレイを任せられ、第8回ワールドフラワーショーでは部門賞に輝いた。

山口県防府市出身。父が



2001年から兵庫県フラワー装飾技能士会の会長を務め、約60人の会員をまとめる。恩師をはじめ支えてくれた人々へ、感謝の念が尽きない。「恩返しのため、後進の指導に力を尽くしていきたい」

(笠原次郎)

春の褒章

県内39人1団体

春の褒章の受章者が発表され、県内からは39人1団体が選ばれた。社会奉仕活動に努めた「緑綬」に1人1団体、各技能に精励した「黄綬」に16人、公益に尽力した「藍綬」には22人が輝いた。発令は29日付。受章者に喜びの声を聞いた。

フラワーデザイン第一人者

黄綬

MARUKOデザインル

ーム代表者

原 万里子さん74

(宝塚市逆瀬台)

た。

父が園芸の指導員で、葉ボタンやフリージア、ハーブなどを栽培し、家庭には常に植物があふれていた。物心付いた頃から花に親しみ、高校生で生け花を始めた。

ヨーロッパから輸入され始めたフラワーデザインに

出会ったのは30歳頃。現代的な華やかさに魅了され、師匠の家に朝から晩まで詰め、一挙一動から学んだ。ドイツやイギリスを旅し、本場の装飾技術を見て回った。

花や器、場所それぞれの

個性を生かし、結婚式のほか、阪急梅田本店ショーウインドーの装飾も手がけた。今では県内のフラワーデザインの第一人者となり、岡山、山口両県にもある教室で約100人の後進を育てる。

「花との出会いが、人との出会いを次々と生んだ。これからも、たくさんのお会いが待っている」と笑顔で話した。



受章を喜ぶ原さん（宝塚市で）